事例３(4)－資料１

村上時夫。17歳。サッカーに明け暮れる高校生だ。彼のすばらしい活躍で地区予選でも優勝し、次は全国大会に駒を進めることになっていた。そんな彼が、お金を落として困っていたのを助けてあげたことをきっかけに、隣のＳ高校の田代ゆう子と付き合うようになった。サッカーに夢を抱き全国大会に向け、仲間と一生懸命練習に励む時夫。一方、自分の得意な英語を生かした職業に就きたいという目標があり、１年間ロンドンまで留学し帰国したばかりのゆう子。夢があり、その夢を大事にしているお互い同士、ひかれあっていった。

時夫は、サッカーの練習にも熱が入り、２人の間も、うまく行き始めた。今まで、付き合った女性は、２、３人いる。しかし、こんなに好きになったのは初めてだ。

そんなある夕方、ゆう子が時夫を訪ねてきた。高校でサッカーをするため親元から離れて１人で下宿している男の部屋に気軽に訪ねてくるゆう子を、自分を信じていてくれるんだなあと思うと同時に、こういうことに慣れているのかもしれないとも思った。ゆう子は、食事を作ってくれ、２人で食べた後、時夫はキスをせまった。

「好きだ、ゆう子」「私もよ、時夫」

時夫が胸に手を置こうとした時、今までじっとしていたゆう子が、突然叫んだ。「まって！」

ゆう子の手にはいつもかけているペンダントが握られていた。

「どうして？　キライなのか、俺のこと」「そんなことない！！」「じゃあ、どうして？」「お願いが…あるの…時夫」「…」

「エイズ検査に行ってほしいの」「えっ？　いまなんて」

「エイズ検査に、私と一緒に行ってほしいの」「エイズ検査って、どういうこと？」「時夫のこと好きよ。このまま一緒にいたい」

「じゃあ－」「でもね、エイズはセックスでうつる病気なのよ！」

時夫はだんだん頭にきた。

「ここは日本だぜ。外国とは違うよ」

「関心なさ過ぎるよ、日本人て・・・。エイズのこと」

「つまり、俺のこと疑っているんだろう」

「違う！信じているから一緒に検査に行きたいの！」

「どういうことだよ。わかんねーよ」

「ヨーロッパのある国では、10代のカップルでも、付き合う前にエイズ検査に行くの・・・・。それがマナーになりつつあるぐらい・・・」

「それって、お互いの過去を疑いあってるみたいじゃん」「そういうことじゃなくて」

「だいたい俺・・・・外国なんて行ったことないし・・・」

そこまで言って、時夫は、もしかしてゆう子がロンドンに彼氏がいたのではないかと思いたった。「いたんだろ？　むこうに彼氏が…。そうだろ？　それでゆう子はそいつとエイズがうつるようなコトしたんだろ？　俺とはしないくせに」

ゆう子は、泣き出した。